

西部中 便い

西部中学校便り No.14
令和8年 3月5日
文責 校長 田中 学

卒業を迎えるにあたって～吉牟田教育長と R7 度生徒会本部「西部中」を語る～

吉牟田教育長（前西部中校長）と生徒を代表して、R7 度生徒会本部役員との対談が行われました。対談では「西部中の良さ」「西部中で過ごす意味」について、振り返りました。卒業生から贈られたかけがえのない宝物と考え、受け継ぎたいと思います。卒業生のみなさん本当にありがとう。

○「西部中の良いところはどんなところですか。」

- ・他の学校にない元気の良さがある。
- ・集団として盛り上げられる。
- ・生徒会イベントでは、学校中に歓喜の声が上がる。想像以上の反応である。
- ・人見知りをしない。挨拶をしたら挨拶を返してくれる。地域の人へも同じ。
- ・体育大会の大玉ころがしが良い例。上下関係なくアイデアを出せる。団結力がある。



○「西部中と言えば何をアピールしますか。」

- ・部活動、スポーツはとても充実している。強い部活が多い。
- ・人数が多いので、いろんな人とかかわることができる。
- ・多い人数の中で、「自分はどう生きるか」を考えることができる。多様性を感じる。
- ・いろんな人と過ごす価値を感じることができる。
- ・クラス替えがあって、共通の話題がなくても、話してみようという気になる。話したり、かかわったりしているととても良い人だと思う。優しいなと思えるし、嬉しい気持ちになることが多かった。

○「生徒会活動はどうでしたか。」

- ・仕事に対しては、とても真面目に取り組んだと思う。いろんな特徴のある人がいるが、考えの選択肢を広げてくれた。そして、元気がある。何よりも協力があつた。

○「入学式にて西部中に通う意味を問うたが、今どのように考えていますか。」

- ・自分の将来の仕事が見つけれられる。
- ・人とのかかわり方が見つけれられた。たくさんの人と関わった経験は大きい。
- ・4つの小学校の4つの常識がまじりあう。西部中での常識ができあがる。それを共有しながら、高めていくことの良さを感じた。
- ・多様性は良いことだが、それを認めあうことで、「見方」が変わる。しかし、何でも良いだろうでは、だめだ。お互いのことを考えることが大切。
- ・自分がやりたくないからやらない。では、生き方が狭くなる。学校生活がきつくなると思う。隙間がどんどんなくなっていく。違う価値観を受け入れる方が楽で豊かな人生になる。